

# 2022年度第2四半期 決算説明資料

2022年11月24日



# 2022年度 第2四半期決算実績と 今後の見通し

---

# 決算サマリー

## ■第2四半期実績

- ダイカスト日本：第1四半期に比べ販売量が回復し、第2四半期は黒字化
- ダイカスト北米：第1四半期に比べ損益が改善
- ダイカストアジア：中国拠点（12月決算会社）が上海ロックダウン影響等の反映により第2四半期大きく落ち込むが、ロックダウン後は順調に回復

## ■2022年度業績見通し

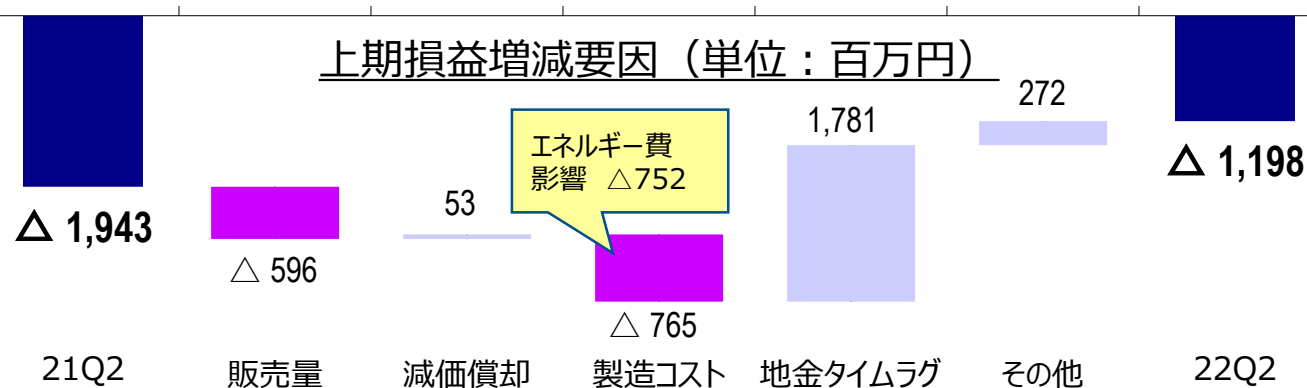
- **9月30日公表の上期予想に比べ収益が良化したことを反映し、年度業績予想を修正**
- **下期は20年度下期以来の半期黒字転換、通期でも黒字確保を見込む。**
  - 生産体制の効率化・原価低減活動と販売量の増加による業績回復
  - エネルギー費高騰への対応として、顧客との間で製品価格の是正が一部進展
  - 配当：上期 5円、下期 5円（予想）

# 決算サマリー

(単位：百万円)

	上期		下期		通期	
	前年同期実績	実績	前年同期実績	計画 (11/14公表)	前年同期実績	計画 (11/14公表)
売上高	54,647	<b>66,536</b>	61,666	<b>79,600</b>	116,313	<b>146,100</b>
営業利益	△1,943	△ <b>1,198</b>	△479	<b>2,700</b>	△2,422	<b>1,500</b>
経常利益	△1,680	△ <b>820*</b>	△352	<b>2,400</b>	△2,032	<b>1,600</b>
当期純利益	△1,780	△ <b>830</b>	△3,409	<b>1,800</b>	△5,189	<b>1,000</b>
売上重量 (2018年度を100とした指標)	74	<b>71</b>	73	<b>89</b>	74	<b>81</b>

上期損益増減要因 (単位：百万円)



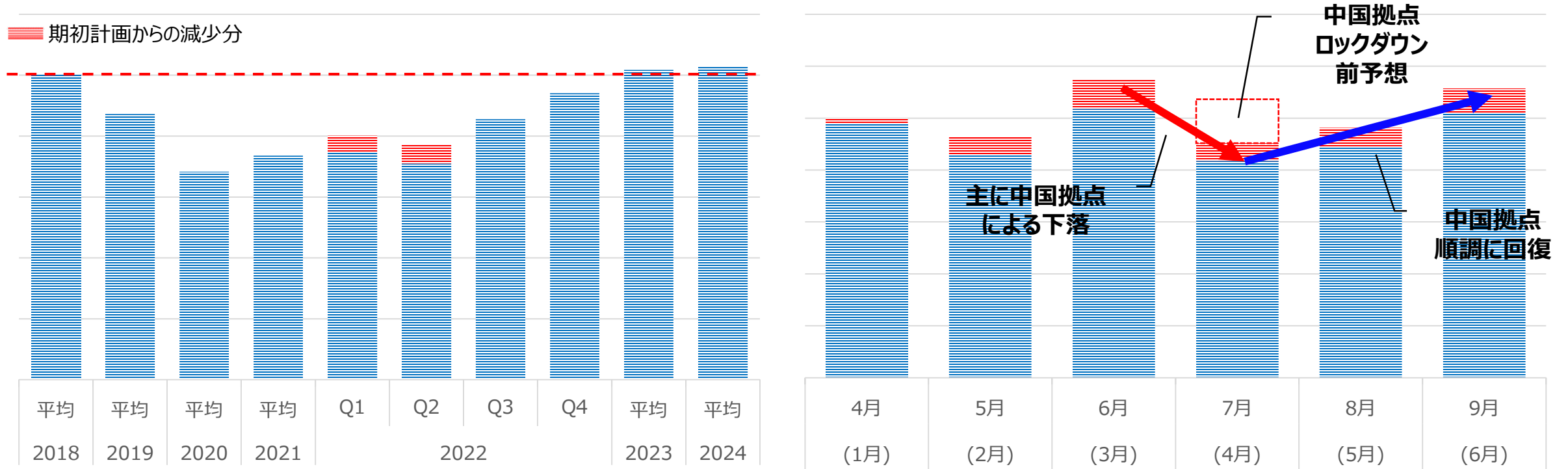
前提為替レート (第3四半期以降) :

USD 135.0円 人民元 20.0円 ルピー 1.70円

\*為替差益436百万円を計上

# 売上重量の推移

- 中国拠点（12月決算）における上海ロックダウン影響が主因で、第2四半期の売上重量が大きく減少
- 上海ロックダウン後の中国拠点は復調、全体としても半導体不足の影響緩和等により回復基調



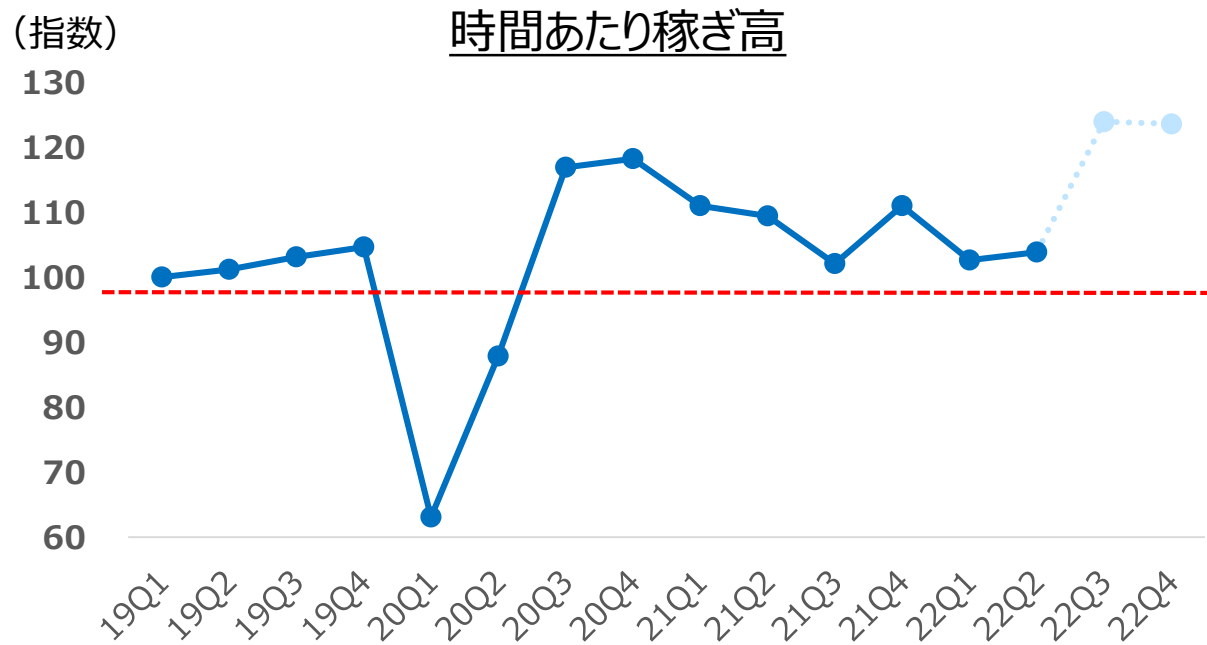
※2018年度を100とした場合の売上重量推移

※12月決算会社は1月～6月

# 収益確保に向けた対応策

## ■ 生産性の安定：

- ✓ 受注変動等の中でも時間あたり稼ぎ高を、コロナ禍以前の水準で維持
- ✓ 下期は受注量の回復と共に稼ぎ高も大きく改善する見込み



## ■ エネルギー費高騰による原価高への対応

- ✓ 影響額を算定し顧客への申入れを実施中
- ✓ 上期において一部製品価格の是正が進展、実績に反映
- ✓ 未決着の是正分は下期の計画には未反映

※時間あたり稼ぎ高 = 売上高から原材料費等の直接費を除く金額 ÷ 工場人員の総労働時間  
※本資料より集計基準を決算期ベースに変更

# ダイカスト事業

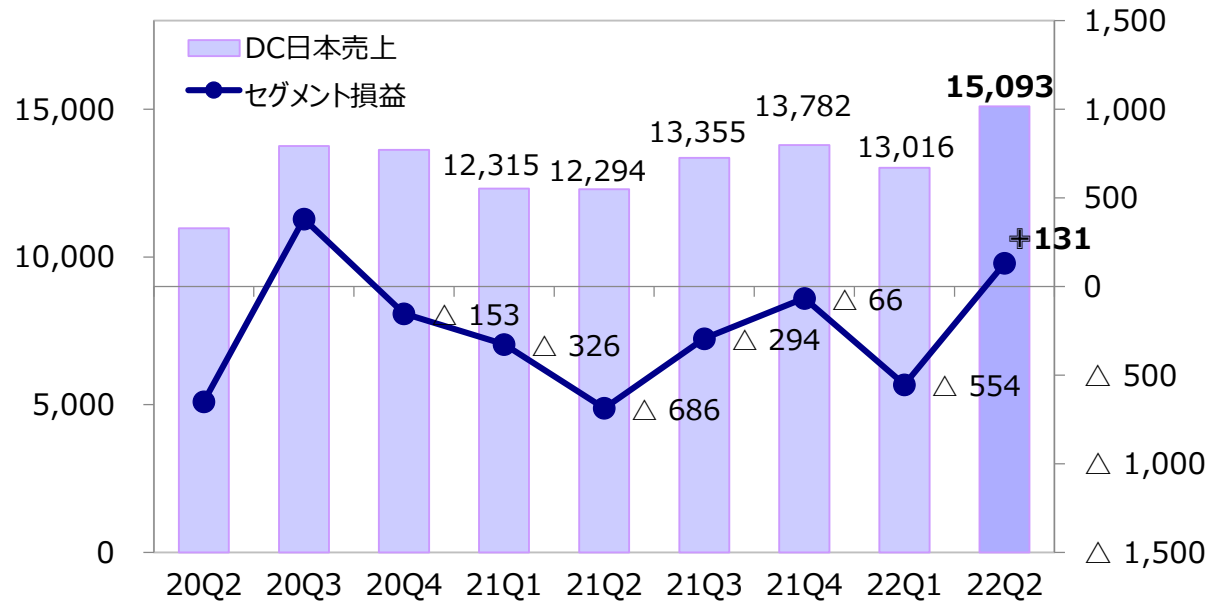
(単位：百万円)

		上期		下期		通期	
		前年同期実績	実績	前年同期実績	計画 (11/14公表)	前年同期実績	計画 (11/14公表)
日本	売上高	24,609	<b>28,109</b>	27,137	<b>31,600</b>	51,746	<b>59,700</b>
	セグメント 損益	△ 1,012	△ <b>423</b>	△360	<b>950</b>	△1,372	<b>530</b>
北米	売上高	14,190	<b>17,016</b>	13,921	<b>21,100</b>	28,111	<b>38,100</b>
	セグメント 損益	△ 553	△ <b>713</b>	△543	<b>550</b>	△1,096	△ <b>160</b>
アジア	売上高	11,726	<b>15,695</b>	14,762	<b>20,500</b>	26,488	<b>36,200</b>
	セグメント 損益	△ 643	△ <b>250</b>	96	<b>870</b>	△547	<b>620</b>

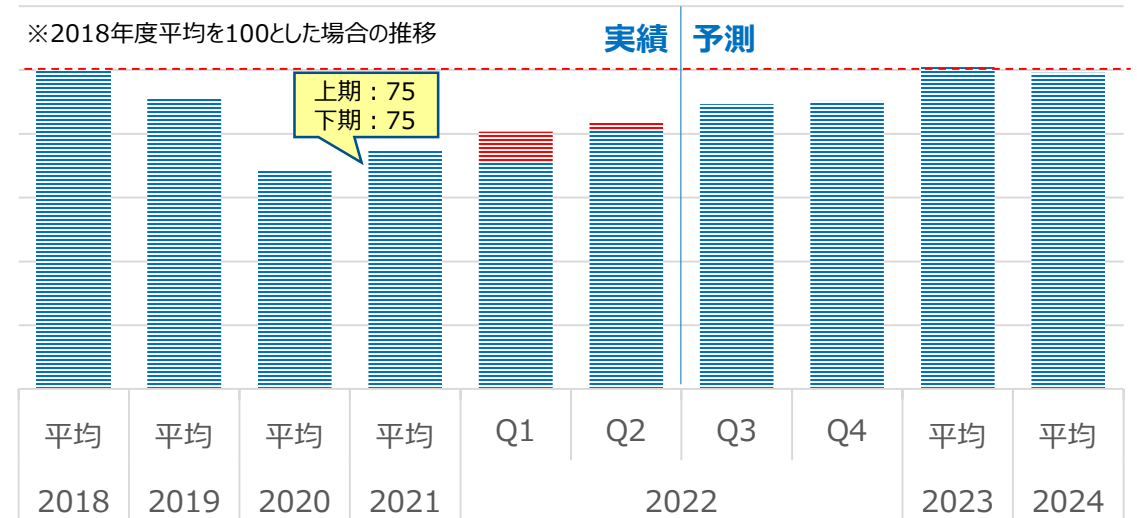
※ 北米セグメントのメキシコ工場及びアジアセグメントの中国工場は12月決算

# ダイカスト日本

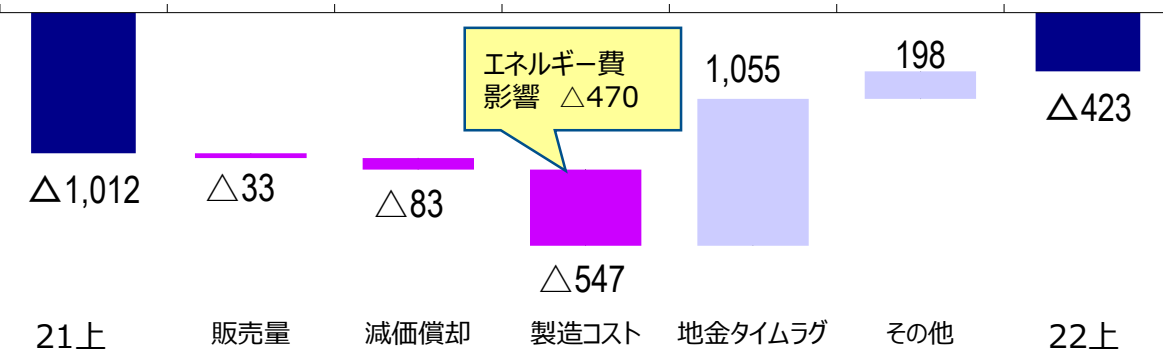
ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



売上重量の推移



セグメント損益増減要因（単位：百万円）



《第2四半期》

売上：150億円 前年同期比 +27億円 (+22.8%)

損益：1億円 前年同期比 +8億円 (黒字化)

▶ 半導体不足等による自動車減産影響の緩和に伴い販売量が回復。前年度のアルミ地金市況急騰によるタイムラグ影響が解消され、損益は黒字転換

《上期》

売上：281億円 前年同期比 +35億円 (+14.2%)

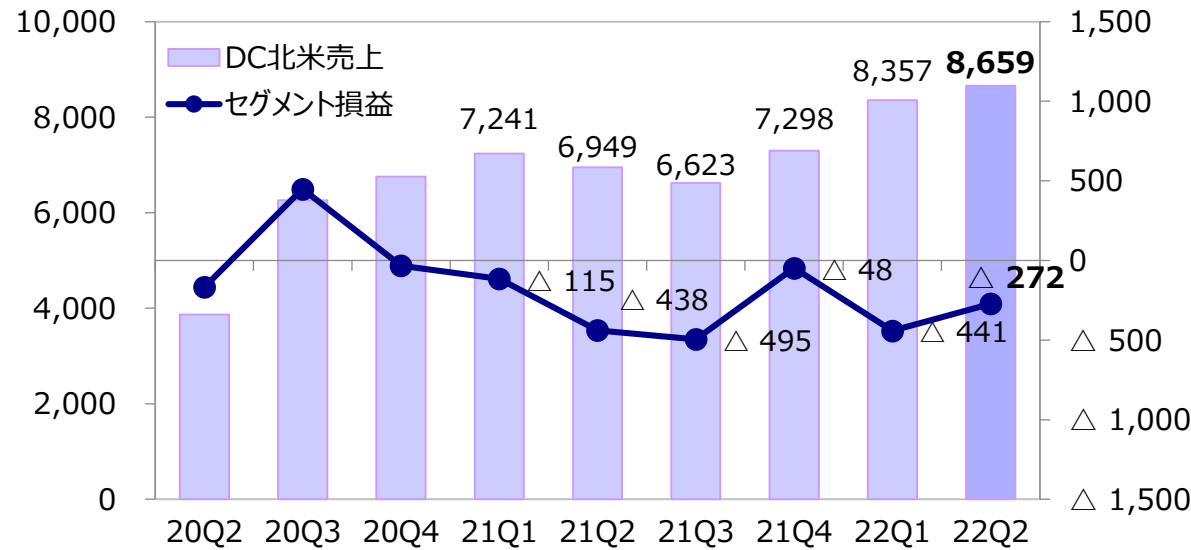
損益：△4億円 前年同期比 +5億円 (赤字縮小)

▶ 第1四半期は半導体不足に加え、中国ロックダウンに伴う物流停滞影響による自動車生産減を受け販売量が減少するも、第2四半期では計画に近い水準に回復

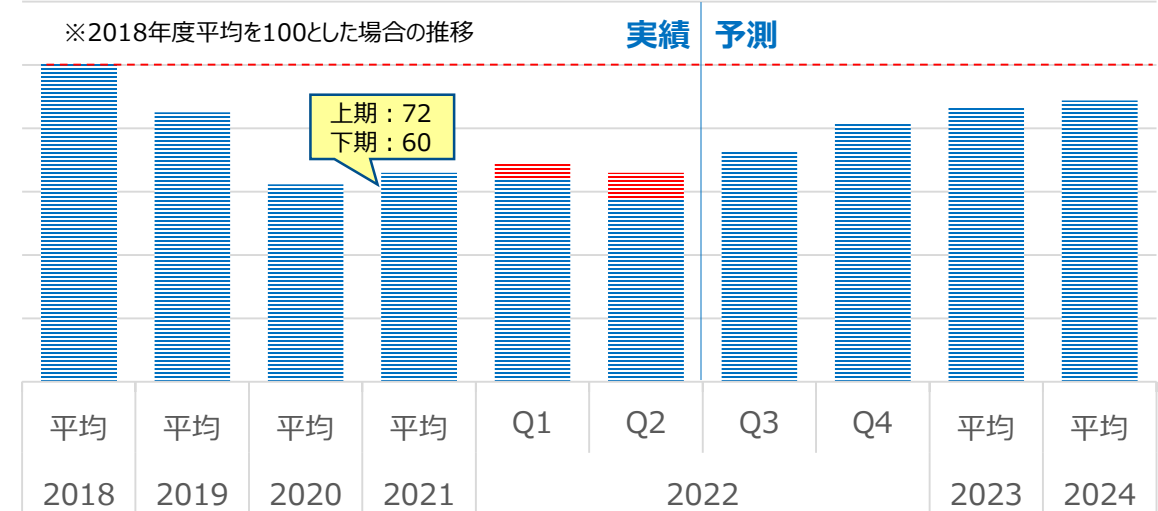


# ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



売上重量の推移



《第2四半期》

売上： 86億円 前年同期比 +17億円 (+24.6%)

損益： △2億円 前年同期比 + 1億円 (赤字縮小)

- 円安等により売上高は増加するも、半導体不足等による自動車の生産減を受け販売量は前年同期比減少。原価低減等により赤字幅は前年同期比縮小

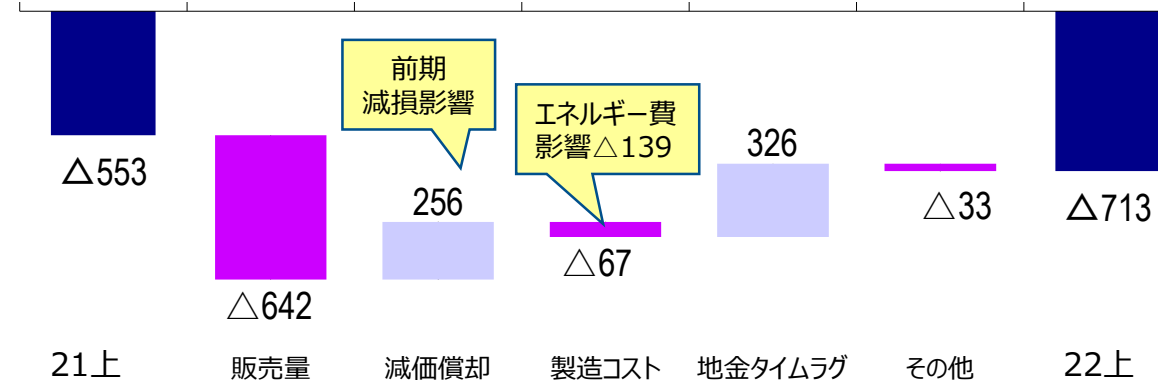
《上期》

売上： 170億円 前年同期比 +28億円 (+19.9%)

損益： △7億円 前年同期比 △1億円 (赤字拡大)

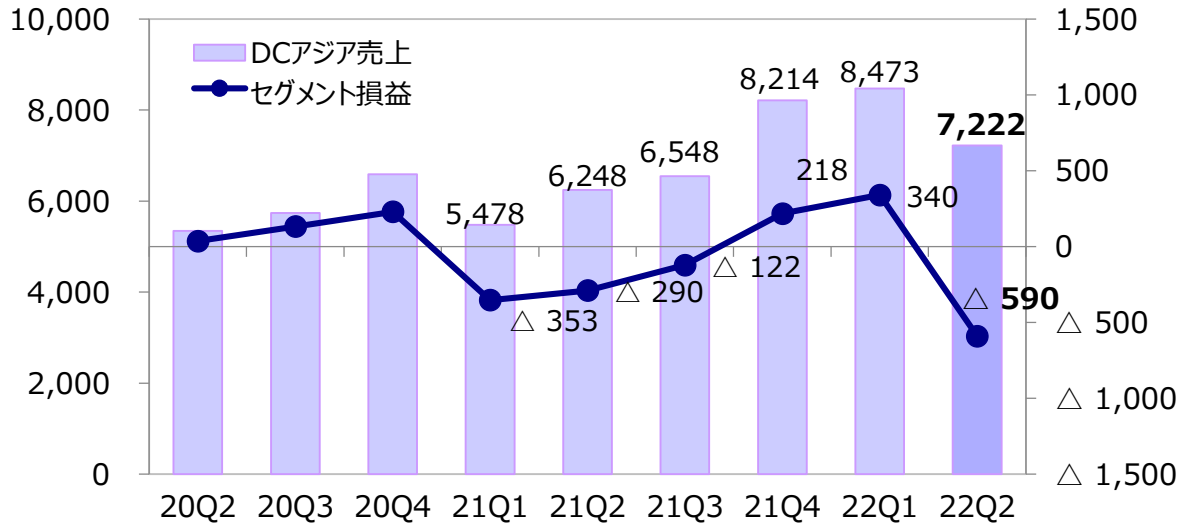
- 売上高はアルミ地金市況上昇影響（15億）、円安影響（25億）等により増収も、販売量は前年同期比減少。販売量減に加え、エネルギー費、労務費上昇等の影響で減益

セグメント損益増減要因（単位：百万円）



# ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



《第2四半期》

売上：72億円 前年同期比 +9億円 (+15.6%)

損益：△5億円 前年同期比 △3億円 (赤字拡大)

➤ アルミ地金市況上昇影響等を受け売上高は増加。12月決算会社である中国拠点の4～5月における上海ロックダウン影響により大幅減益

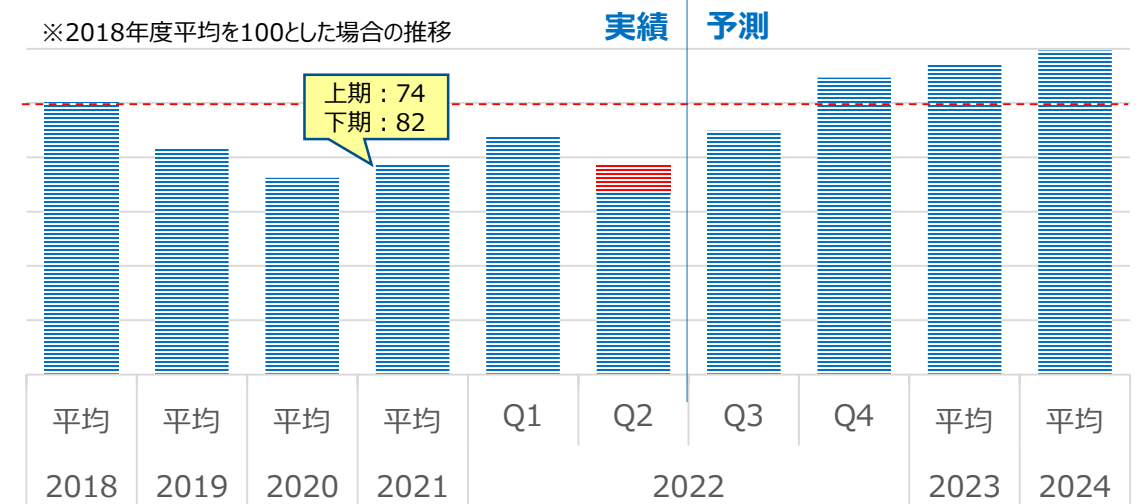
《上期》

売上：156億円 前年同期比 +39億円 (+33.8%)

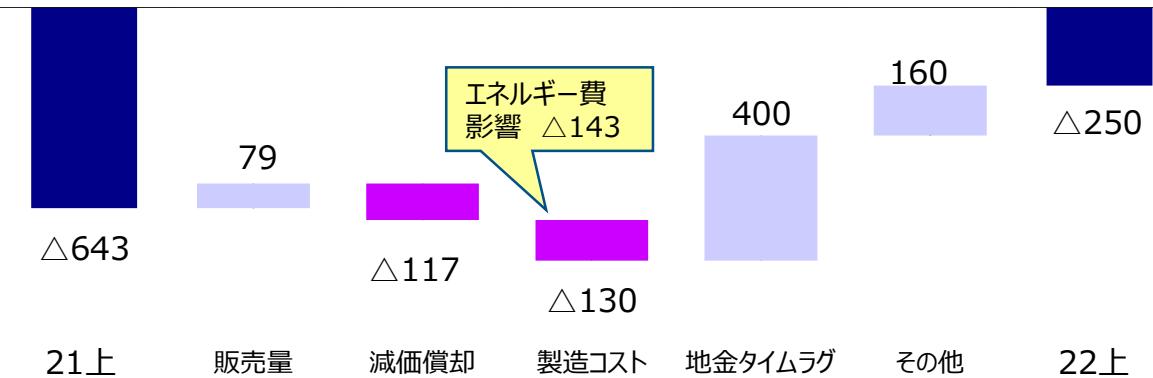
損益：△2億円 前年同期比 +3億円 (赤字縮小)

➤ 地金市況上昇や円安影響等により売上高は増加。上海ロックダウンの影響により、販売量は計画より減少するも前年同期比では微増。前年度のアルミ地金タイムラグ影響もなくなり赤字縮小

売上重量の推移



セグメント損益増減要因（単位：百万円）



# アルミニウム事業および完成品事業

(単位：百万円)

		上期		下期		通期	
		前年同期実績	実績	前年同期実績	計画 (11/14公表)	前年同期実績	計画 (11/14公表)
アルミニウム事業	売上高	2,832	<b>3,920</b>	3,631	<b>3,800</b>	6,463	<b>7,700</b>
	セグメント損益	144	<b>152</b>	120	<b>180</b>	265	<b>330</b>
完成品事業	売上高	1,289	<b>1,794</b>	2,214	<b>2,600</b>	3,503	<b>4,400</b>
	セグメント損益	112	<b>111</b>	200	<b>140</b>	312	<b>250</b>

## <アルミニウム事業>

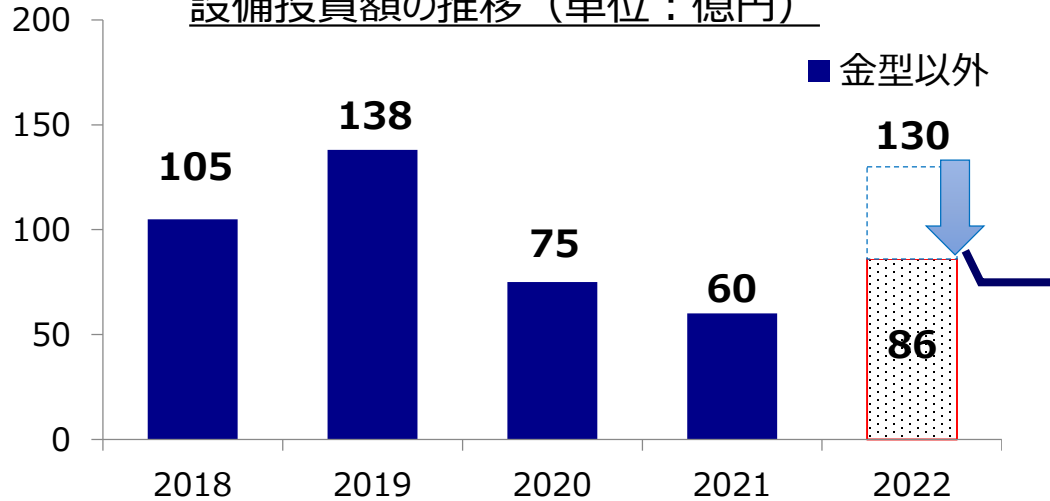
- 売上：半導体不足の長期化による自動車減産影響により、販売量が前年同期比減少するも、アルミ地金市況の上昇により増収
- 損益：アルミ地金市況に連動した売上高の好影響と、原価低減や生産性改善により収益を維持

## <完成品事業>

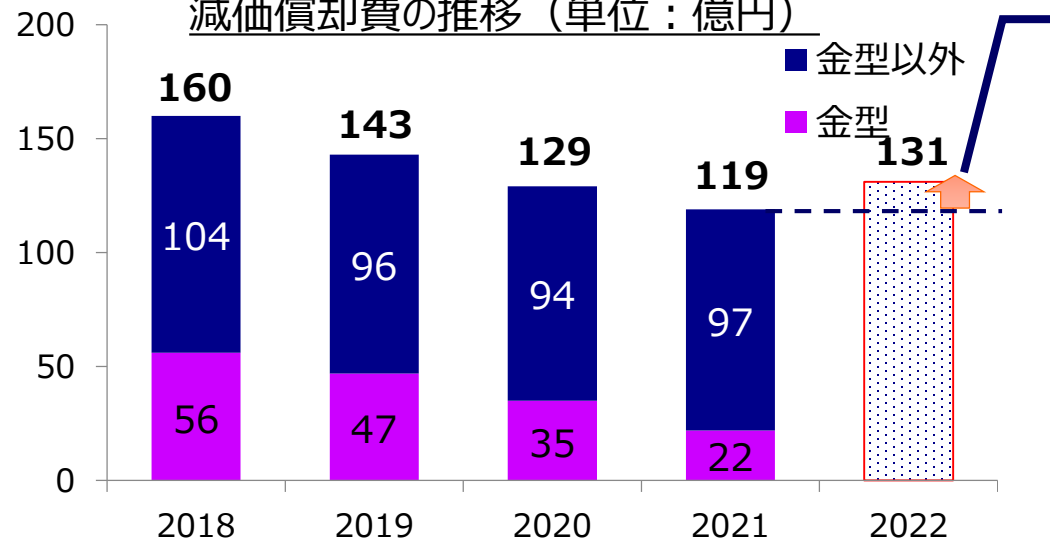
- 売上：主要販売先である半導体関連企業のクリーンルーム物件や通信会社のデータセンター向け物件等の受注が増加し増収
- 損益：安定的に利益を確保

# 設備投資・減価償却の動向

設備投資額の推移 (単位：億円)



減価償却費の推移 (単位：億円)



## 2022年度見通し

- 設備投資金額：130億円の計画に対し86億円の着地見通し (計画比44億円の圧縮)
- 減価償却費：売上拡大に向けた設備投資等により131億円の見通し

- 投資時期の見直し
- 既存設備を有効活用し新規投資を抑制

資産回転率  
の最大化

新規製品用  
設備

受注量拡大  
設備増強

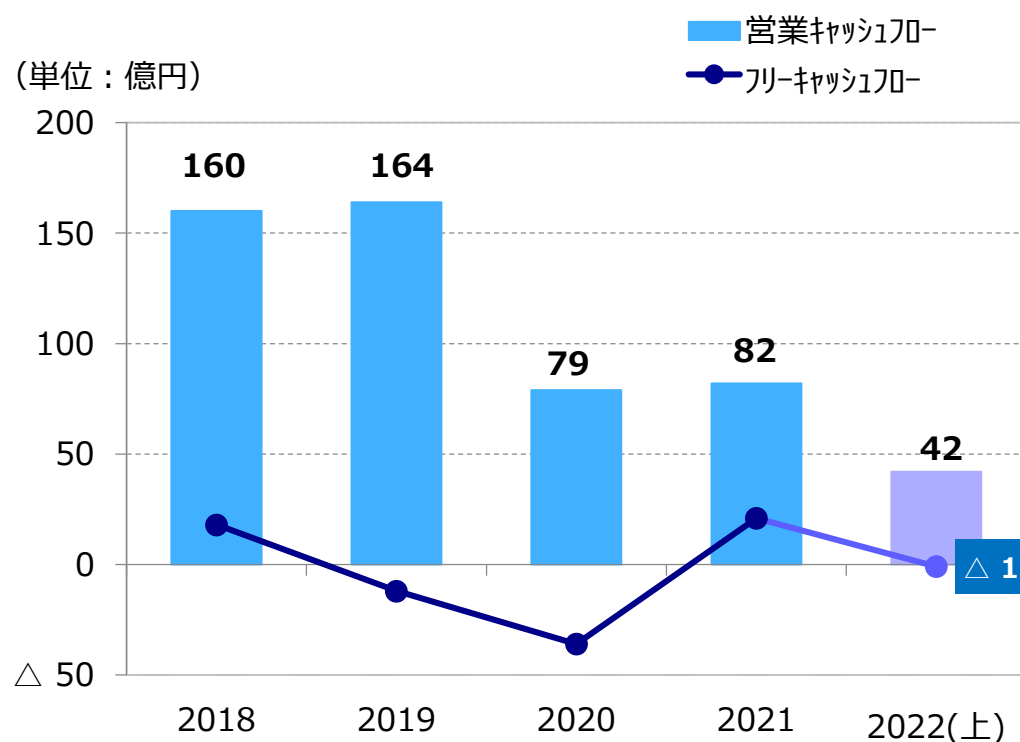
売上拡大に向け投資  
減価償却費に加算

投資効率  
の最大化

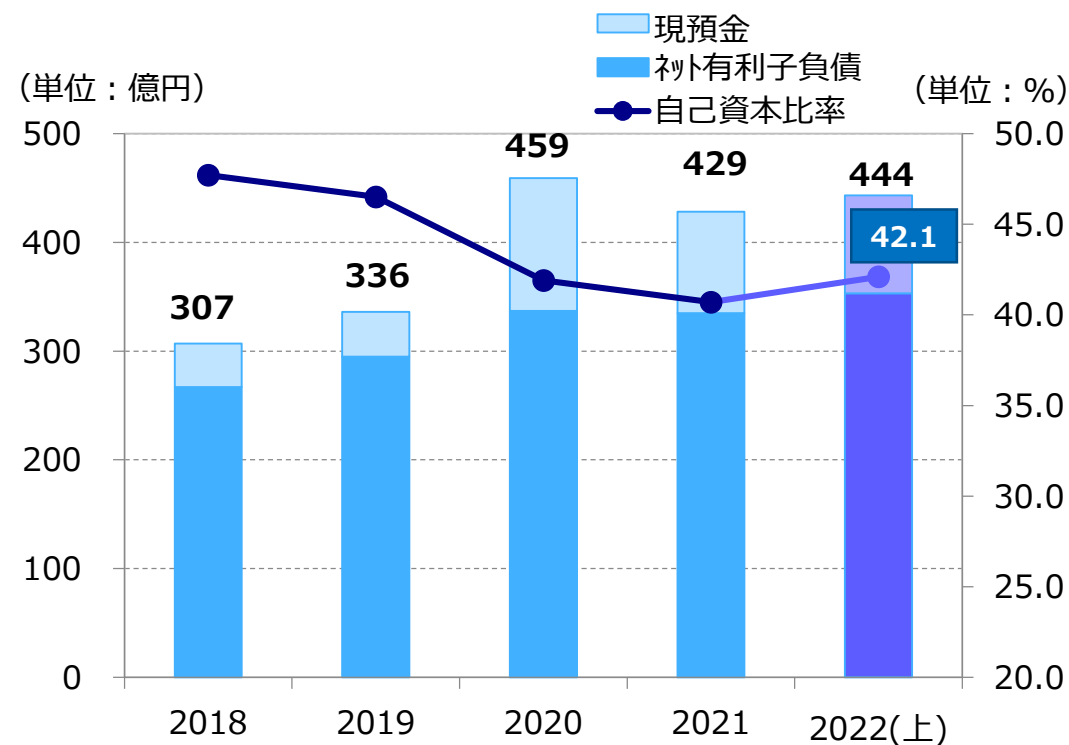
投資コストを意識した資産・投資効率の最大化を行い  
中期経営計画の目標値達成を目指す

# 2022年度 第2四半期の財務状況

投資の抑制により、フリーキャッシュフローのマイナス幅を抑制  
従来より高い水準で手元現預金を継続確保、有利子負債は444億円（ネット有利子負債は353億円、前年比18億円増）



※フリーキャッシュフロー（FCF）＝営業CF－投資CF



※ネット有利子負債＝有利子負債－現預金

# TOPICS : 2022年 主な搭載車種紹介

## ■ Subaru SOLTERRA / Toyota bZ4X

BEV

アーレスティの強みを生かし、電動系搭載部品を日本・中国でグローバル生産

## ■ Suzuki GRAND VITARA

HEV

トヨタ自動車株式会社とスズキ株式会社の業務提携に基づき、スズキが開発し、トヨタ・キルロスカ・モーターにて生産を開始

トヨタ初の外製ブロックをアーレスティインディアで生産

## ■ Nissan X-TRAIL e-POWER

HEV

日本で電動系搭載部品の生産を開始

## ■ Toyota CROWN

HEV

日本で生産を開始し、今後も順次新モデルへ搭載予定

## ■ Honda CR-V

HEV

北米で生産を開始し、今後も順次新モデルへ搭載予定



GRAND VITARA



# 非自動車分野での取り組み

## ■完成品事業（モバフロア）

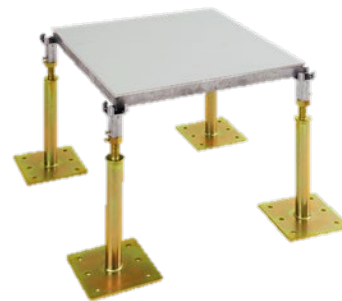
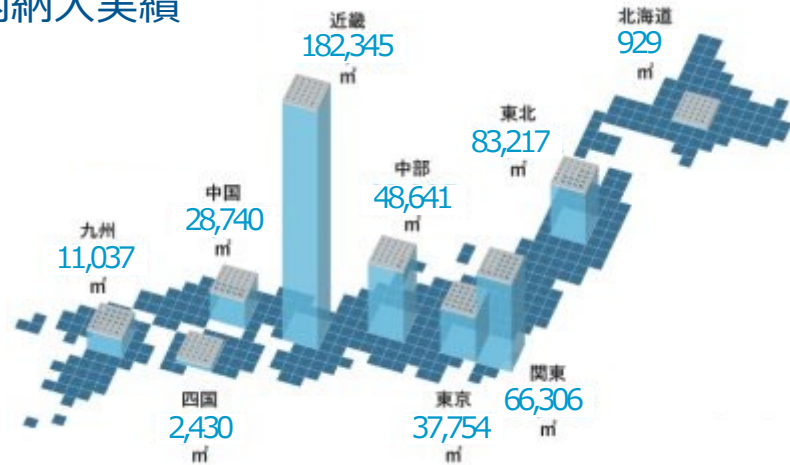
国内トップシェアを維持しつつ、中国をはじめとしたアジア市場でも売上を拡大

- ✓ クリーンルーム向けでは10年以上国内シェア1位を維持
- ✓ 2022年主な実績：
  - 大手半導体メーカー キオクシア株式会社 四日市工場・キオクシア岩手株式会社 北上工場（計約18万枚）等
- ✓ 半導体、ウエハー生産工場等、クリーンルーム需要増加に対応し生産能力増強を計画：
  - 中国及び日本生産 約62万枚/年 ⇒ 約126万枚/年（2024年度）

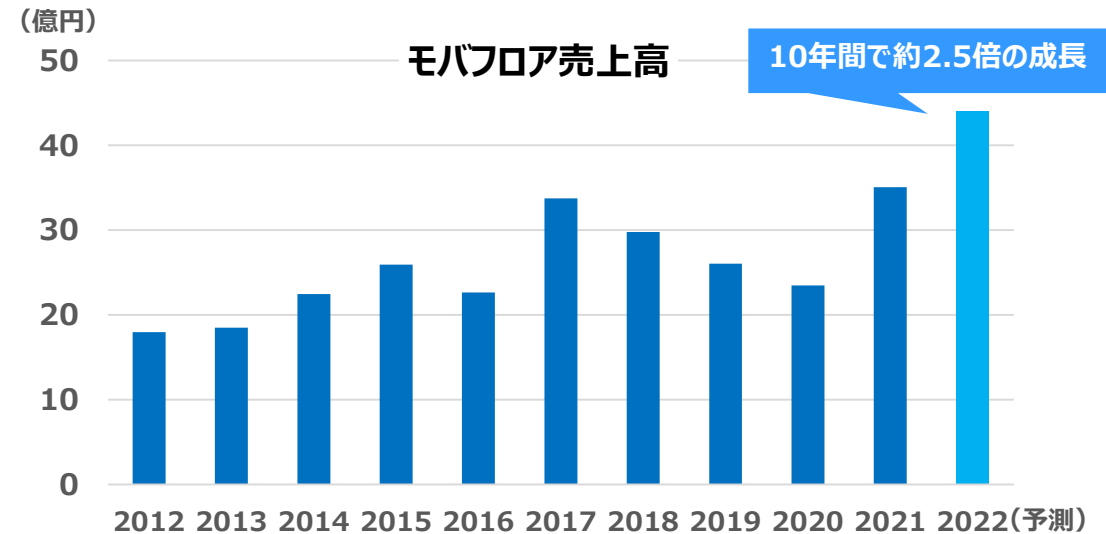


キオクシア岩手株式会社北上工場

### 国内納入実績



※500m<sup>2</sup>以上 / 件  
(2013年4月～2022年3月)

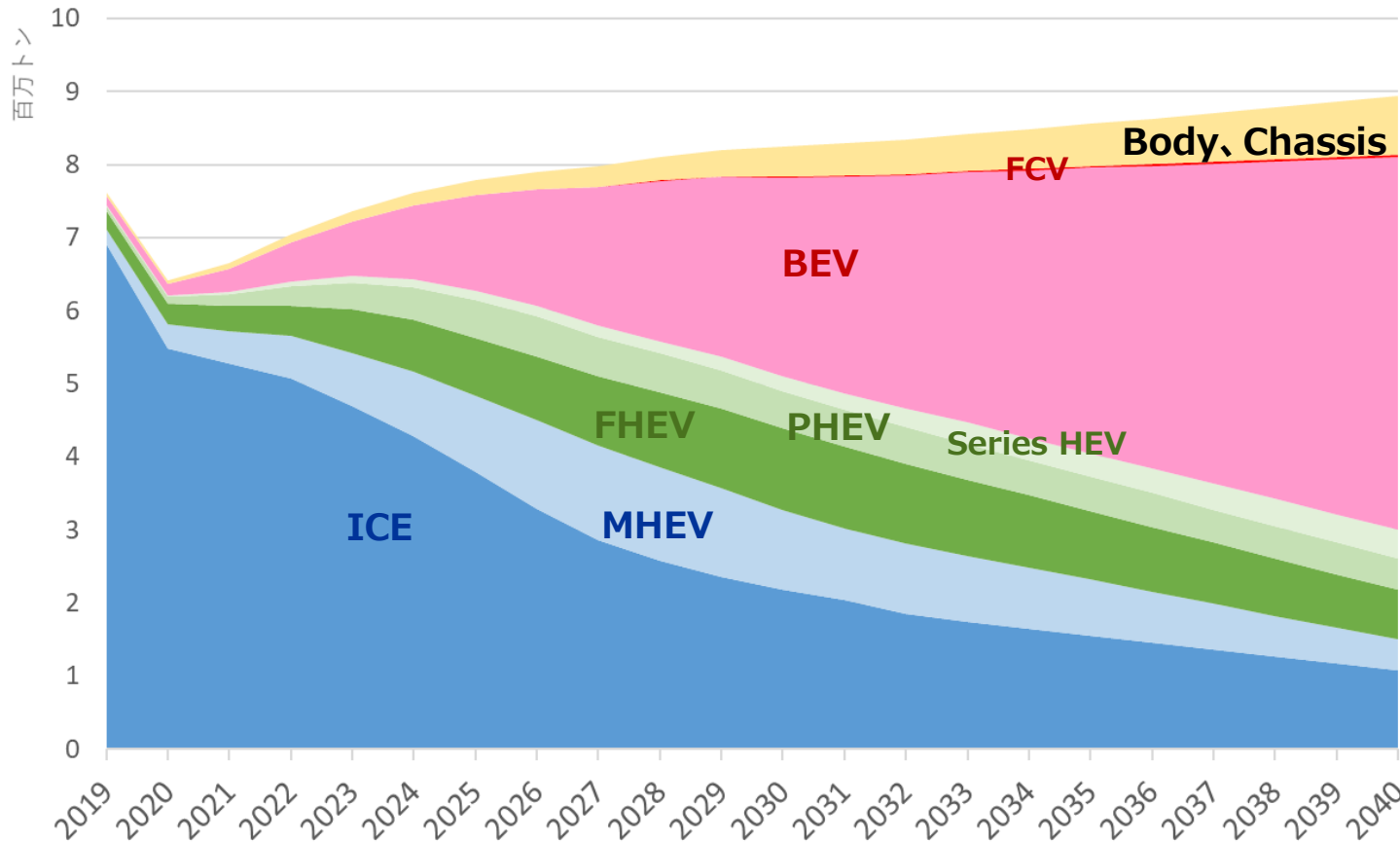


# 電動車向け部品の受注状況と車体系部品 需要創出に向けた取り組み



# 電動車向け部品、車体系部品市場規模予測

グローバルダイカスト需要予測



© 2022 IHS Markit Inc. All rights reserved

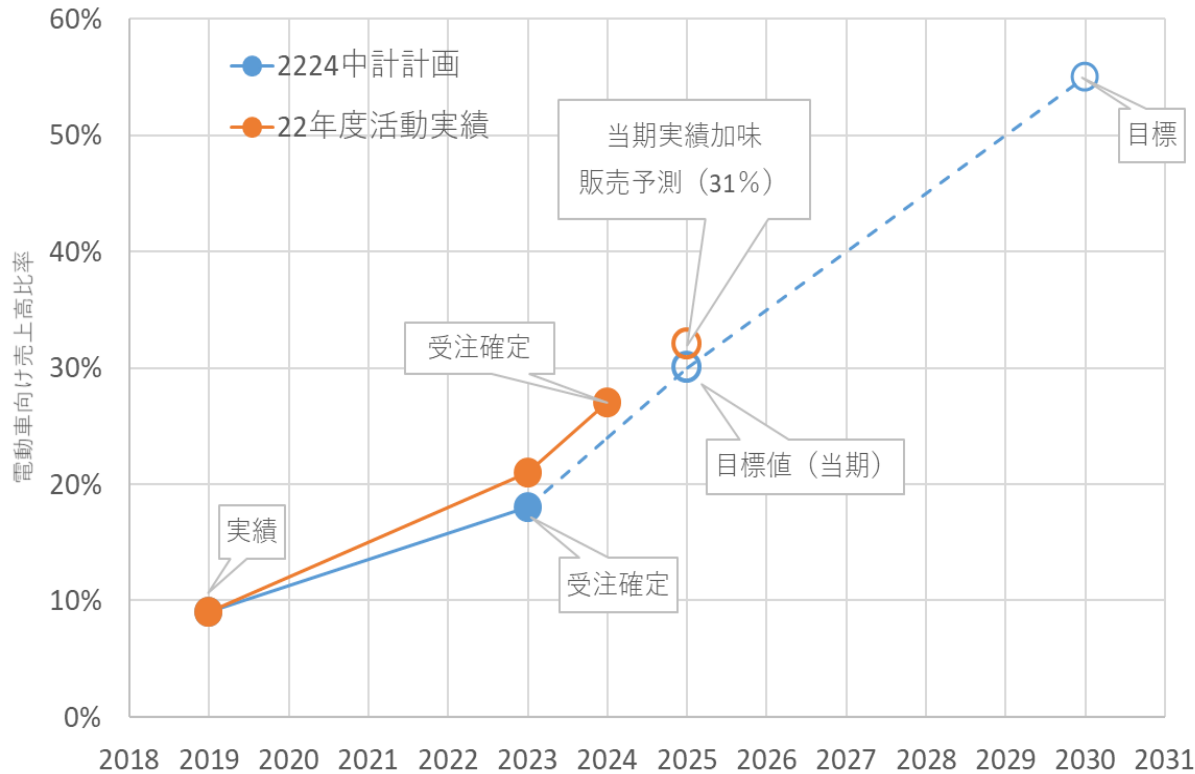
※IHSデータを基に当社にて作成

- 自動車向けダイカスト全需は持続的に成長
  - 2040年約27%増(対2022年)
- 市場成長・変化に合わせた成長戦略
  - 電動車向け部品へのシフト
  - 車体系部品へビジネス領域を拡大

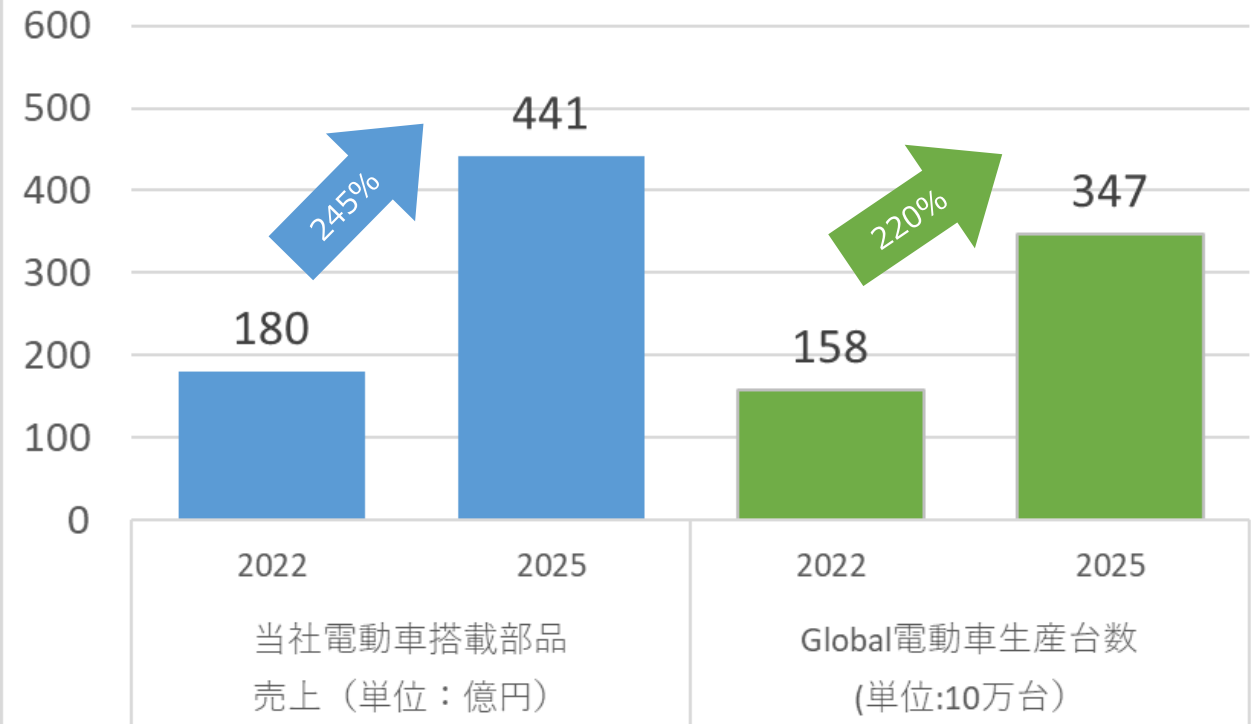
# 電動車向け部品売り上げ拡大の状況

- 電動車向け部品の売り上げ拡大は、計画通りに推移
- 電動車向け部品の売上高の成長は市場成長と同等以上

電動車搭載部品の受注状況



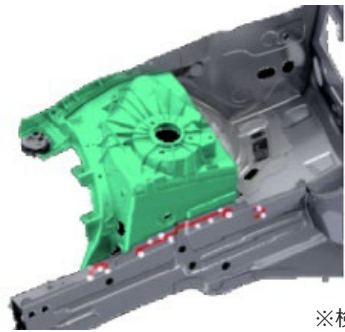
当社電動車向け事業と市場成長



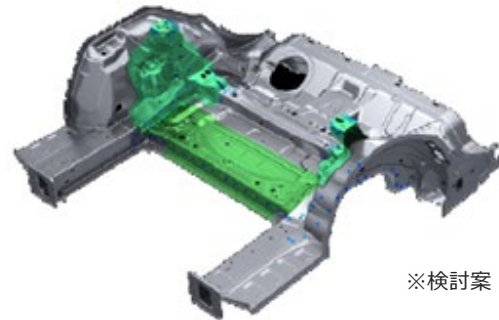
# 車体系部品へのビジネス領域拡大

■ ジーテクト様との共同開発で、ダイカストとプレスとの融合により新たな価値を創造

➤ ダイカストによる剛性の最適化



※検討案

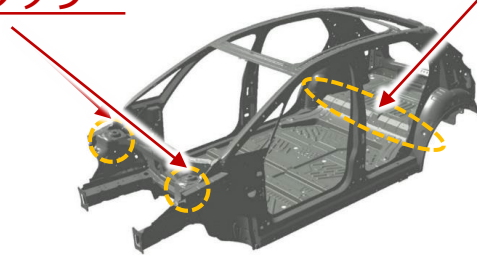


※検討案

フロントショックタワー

リアホイールハウス周辺

ダイカスト  
+  
鉄プレス



ダイカスト  
+  
鉄プレス

■ 車体系部品のプロモーション活動の強化



11月10日～12日  
日本ダイカスト会議・  
展示会に出展

EV・車体系に特化したPRを展開



# 需要を創出する技術開発



## ■ LCA\*優位性

⇒アルミダイカスト【再生塊】 ～環境にやさしい材料～

☞CO<sub>2</sub>排出量は鉄鋼の1/4、アルミ新塊の1/18

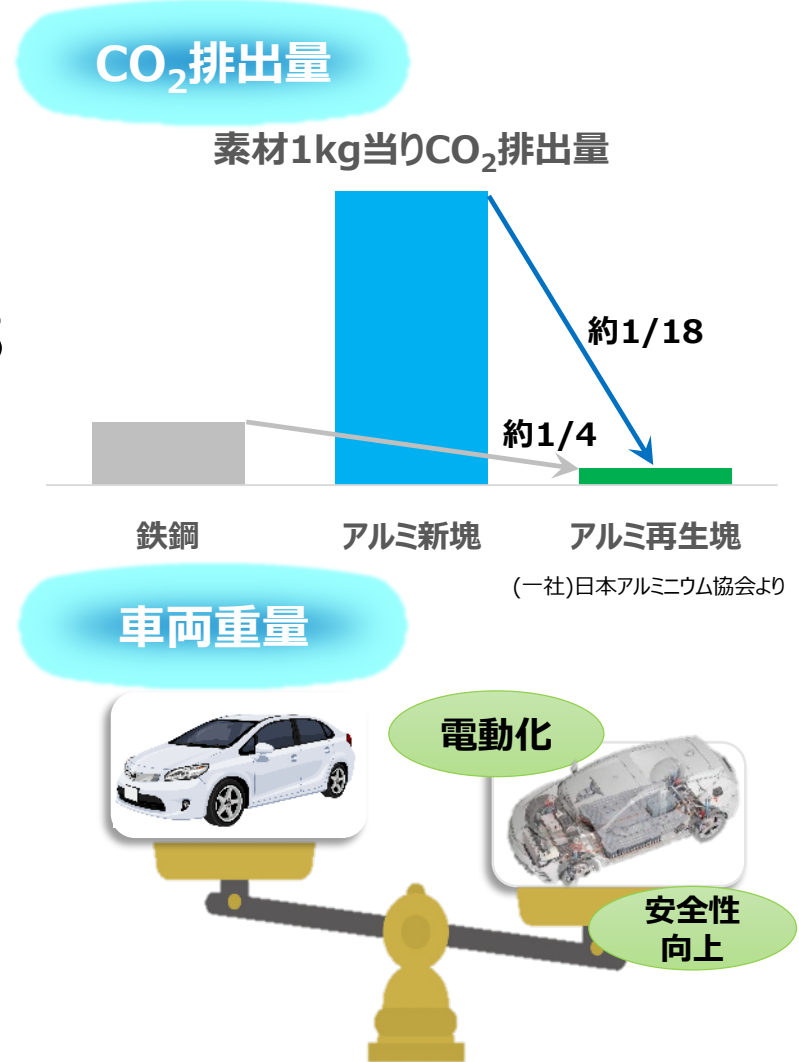
☞90%以上の優れたリサイクル性

## ■ 車両軽量化への対応

⇒車体・足廻系部品 ～マルチマテリアル対応～

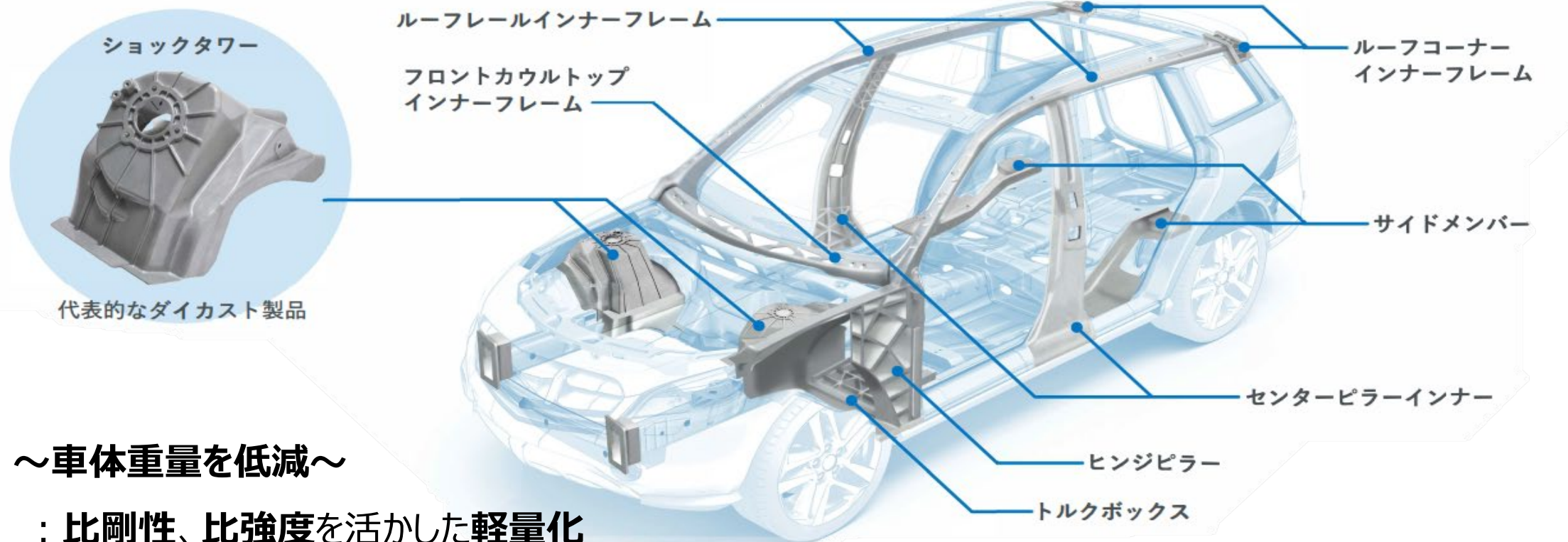
☞高延性材料・各種接合技術

## ◎ 車両の軽量化と資源循環で地球環境に貢献



\*LCA ( Life Cycle Assessment ) : 製品等のライフサイクル全体 (資源採取、原料生産、製品生産、流通・消費、廃棄・リサイクル) 又はその特定段階における環境負荷を定量的に評価する手法

## ■ダイカスト適用事例



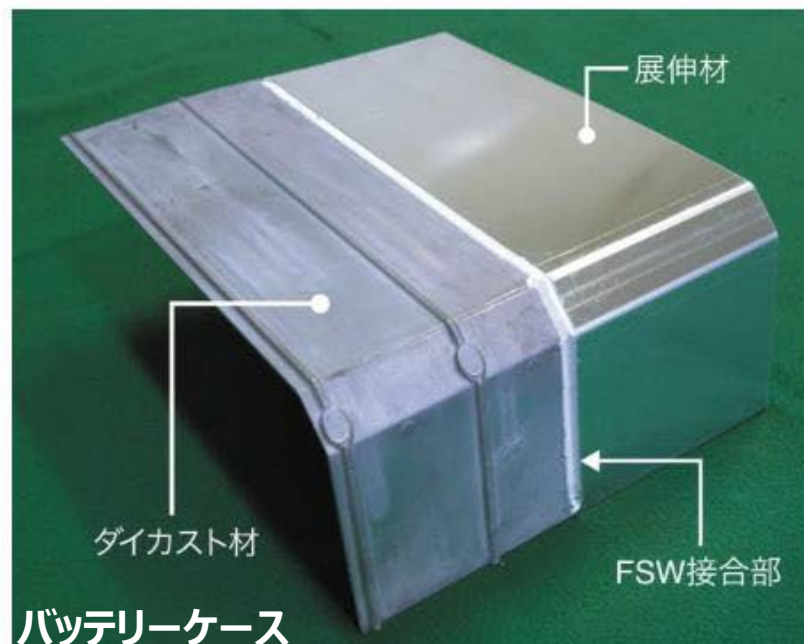
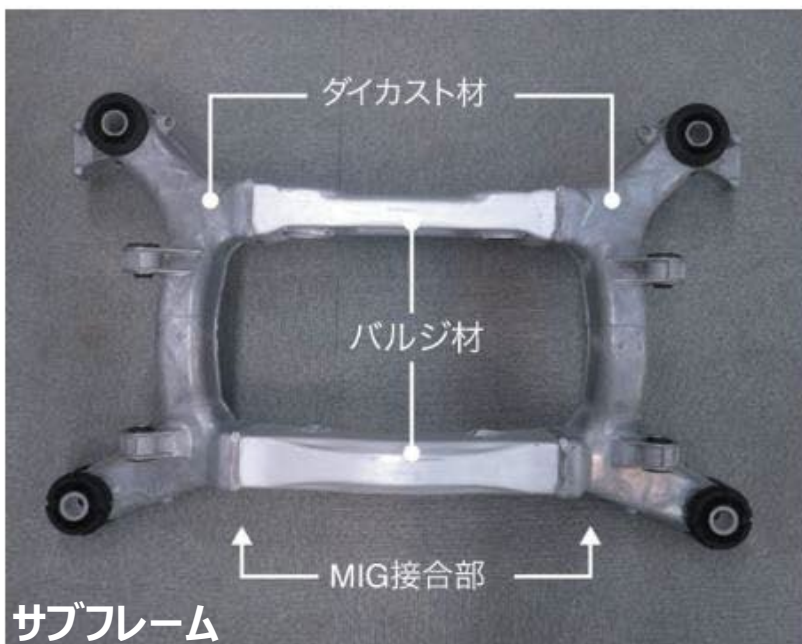
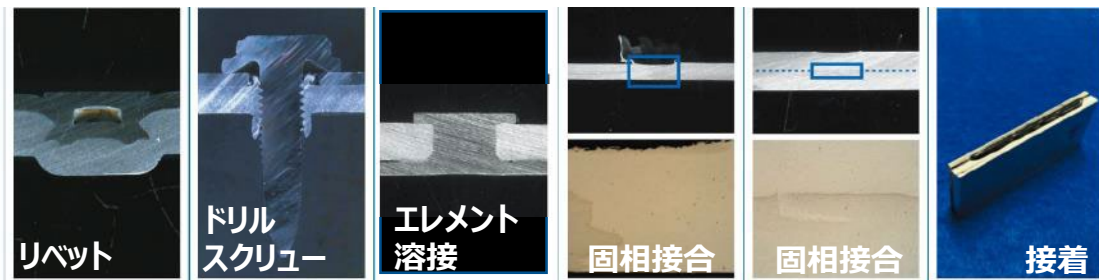
## ■狙い ～車体重量を低減～

- ・軽量化 : 比剛性、比強度を活かした軽量化
- ・形状自由度 : 形状自由度を活かした一体成型
- ・剛性向上 : リブ形状や肉厚の自由度を活かした断面形状

# ニーズを具現化する技術 各種接合技術



■車体系にアルミダイカストを採用するためには  
“異種材料との接合技術”がキーポイント



◎ 市場ニーズに応える、各種接合法の技術確立への取組み

# ニーズを具現化する技術 Hi-GF法:当社独自の高真空ダイカスト法

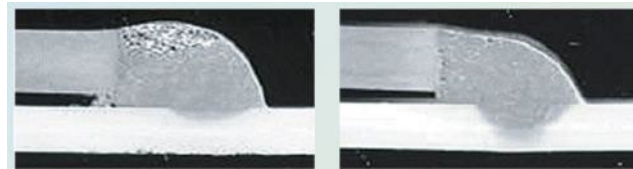
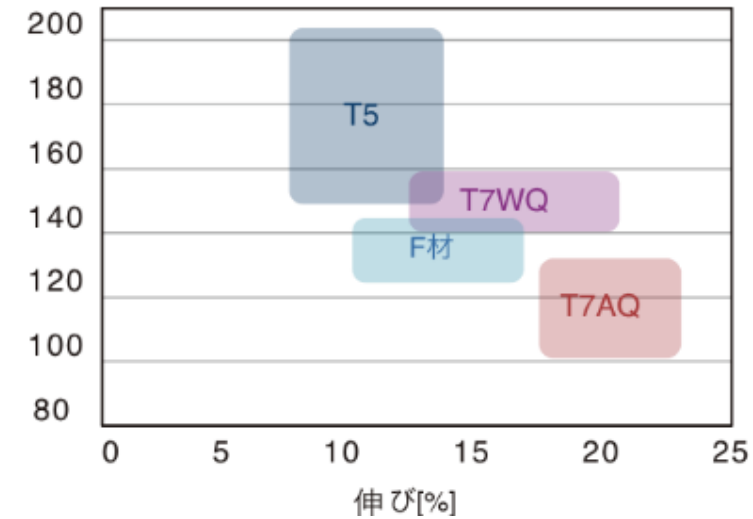
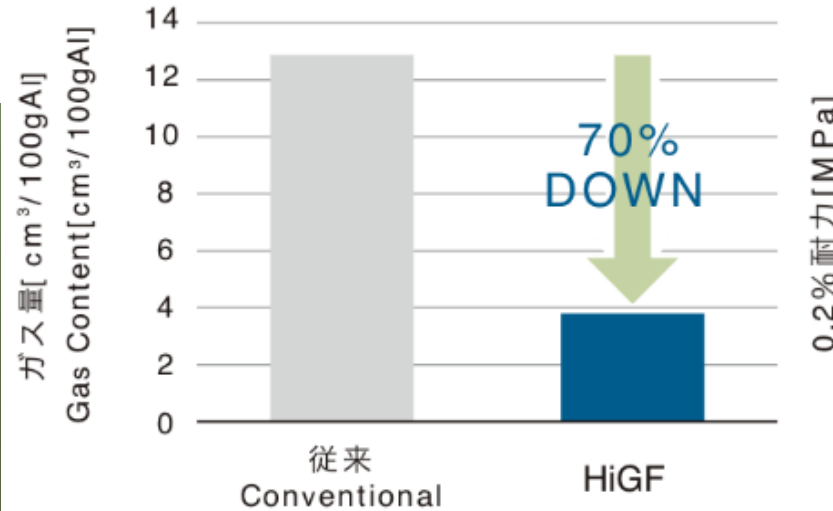


## ■高品質・高生産性

- ・溶接接合が可能、熱処理と組合せてリベット接合が可能
- ・2個/1shotの同時生産により、世界最速レベルの高い生産性



マルチキャビティを採用した  
ショックタワー



部品接合に対する優位性

# ニーズを具現化する新しい技術 レーザー熱処理

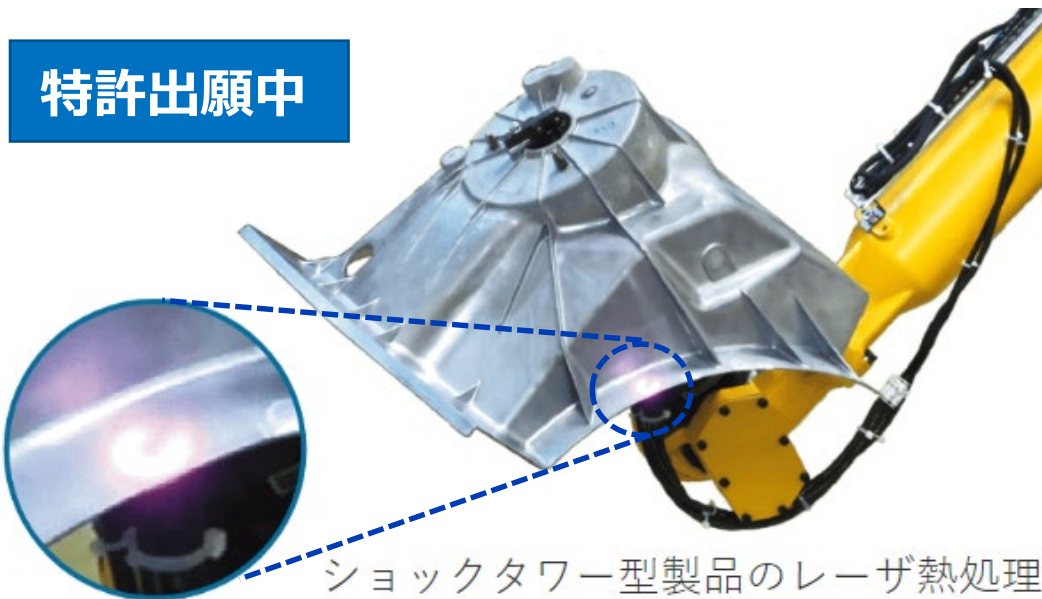


## ■環境影響の少ない低コストな熱処理

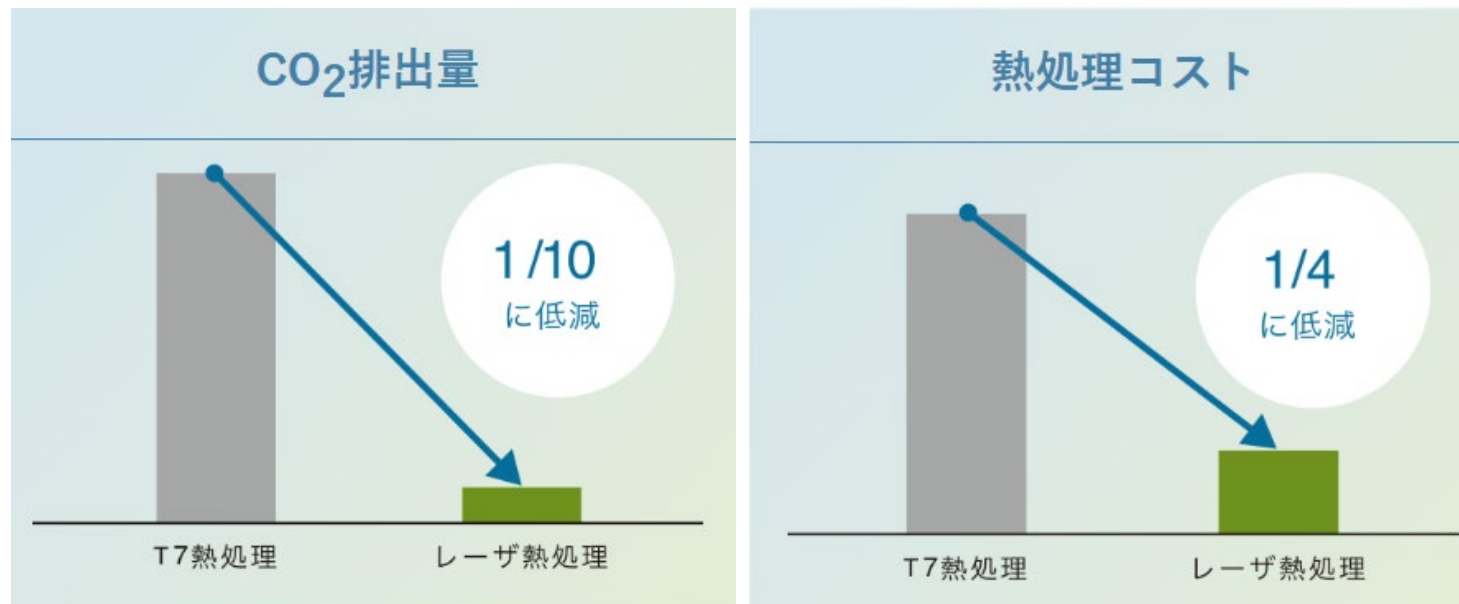
- ・必要部分のみをレーザーで短時間加熱
- ・大規模な熱処理設備が不要

CO<sub>2</sub>排出量  
熱処理コスト } → 大幅に低減

特許出願中



ショックタワー型製品のレーザー熱処理



◎ 技術探究を続け、唯一を生み出すことで市場競争力を向上

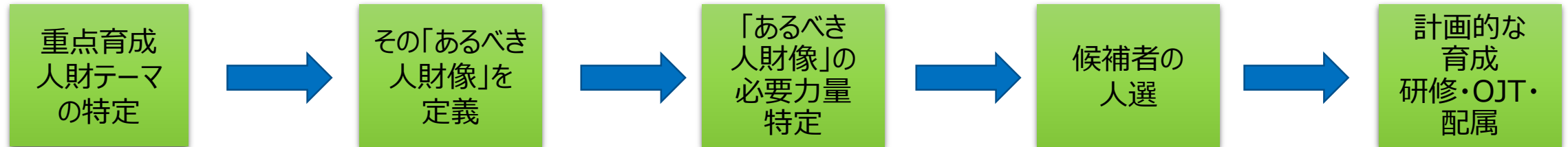


# 人的資本経営強化に向けた取り組み



## ■ 全社で「人財ロードマップ」整備 – 事業戦略と人財育成の連動

- ✓ 中期的な事業戦略や事業環境に照らし、ニーズが高い人財の要件と候補者のターゲットを決めて、計画的、優先的に育成する枠組



## ■ 生きいきと働ける会社づくり – 従業員にとっての「Ahrestyで良かった」の実現

- ✓ 従業員向けキャリア支援の抜本的強化（従業員のキャリア形成と会社の育成ニーズのマッチング）
- ✓ 従業員アンケート※結果を活用した職場風土改善・エンゲージメント向上の活動、健康経営の推進
- ✓ 作業負担の低い職場（エルゴノミクス）、快適作業環境実現への取り組み
- ✓ グローバル統一カリキュラムでの現場管理監督者等の教育・育成





## ■ ダイバーシティとインクルージョンの促進 – 多様な価値観を新たな成長の力に

- ✓ 日本における女性従業員比率、女性管理職比率の底上げ（ジェンダーフリー職場・職域の拡大、ワークライフバランスの促進）
- ✓ 経営のダイバーシティ推進（多様な人材の経営幹部登用に向けた育成・制度整備、「男性・日本人経営」からの脱却）
- ✓ 障がい者雇用特例子会社アーレスティインクルーシブサービスにおける、障がいのある方々が生きいきと働ける会社作り

※ 国内はメンタルヘルスチェック含む

# 2224目標値

	2022年度	2022年度	2024年度	2030年度	
	通期計画	通期計画 (11/14)	通期計画	目標値	(補正後*)
売上高 (百万円)	141,000	146,100	170,000	160,000	(180,000)
営業利益 (百万円)	1,900	1,500	6,500	9,600	(10,800)
営業利益率	1.3%	1.0%	3.8%	6.0%	(6.0%)
ROA	0.7%	0.7%	3.3%	-	-
ROE	1.6%	1.9%	7.8%	-	-
自己資本比率	40.9%	38.7%	42.8%	45.0%前後	
電動車売上比率 	FY25 30%	FY25 30%	FY27 45%	-	-
CO2排出量原単位削減(2013年度比) 	▲13%	▲13%	▲19%	▲50%	

2027年度 通期目標  
電動車比率 FY30 55%

\*補正後: 22年度、24年度通期計画策定時の為替レート及び地金価格に補正した数値

# 2224中期経営計画

2040年ビジョン

期待を超える 2040

## 2224中期経営計画 注力項目

期待を超える 2040

低コストで生産性の高いものづくりの確立 ・ CO2削減活動の推進

軽量化で地球の未来に貢献する

電動車向け部品中心の  
事業ポートフォリオへの着実なシフト

技術探究を続け、唯一を生み出す

需要創出技術・生産性向上技術開発での  
売上高貢献

Ahrestyで良かった！を実現する

生きいきと働ける職場づくり ・ 国内アーレスティのダイバーシティ推進



# Casting Our Eyes on the Future

**【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】**

**株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664**

**E-mail: [ahresty\\_MP0\\_IR@ahresty.com](mailto:ahresty_MP0_IR@ahresty.com)**

**URL: <https://www.ahresty.co.jp>**

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。